

# 2017年 おやじの山旅 北海道 道東の山 (2017年6月24日～7月2日)



羅臼岳山頂 1661m (6月27日 10時35分)



カムイヌプリ (摩周岳) 山頂  
857m (6月30日 8時40分)



硫黄山山頂 1562m (6月28日 10時25分)

## 1. 趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達がこれから定年を迎える。  
定年後も、かけがえのない仲間達で山を楽しみたい。  
(10年間を目安に活動を続けたい・・・、その2年目)

## 2. コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

## 3. 計画

山城・山名 北海道 道東の山

期間 2017年6月24(土)～7月2日(日) 9日間

### 参加者と役割分担

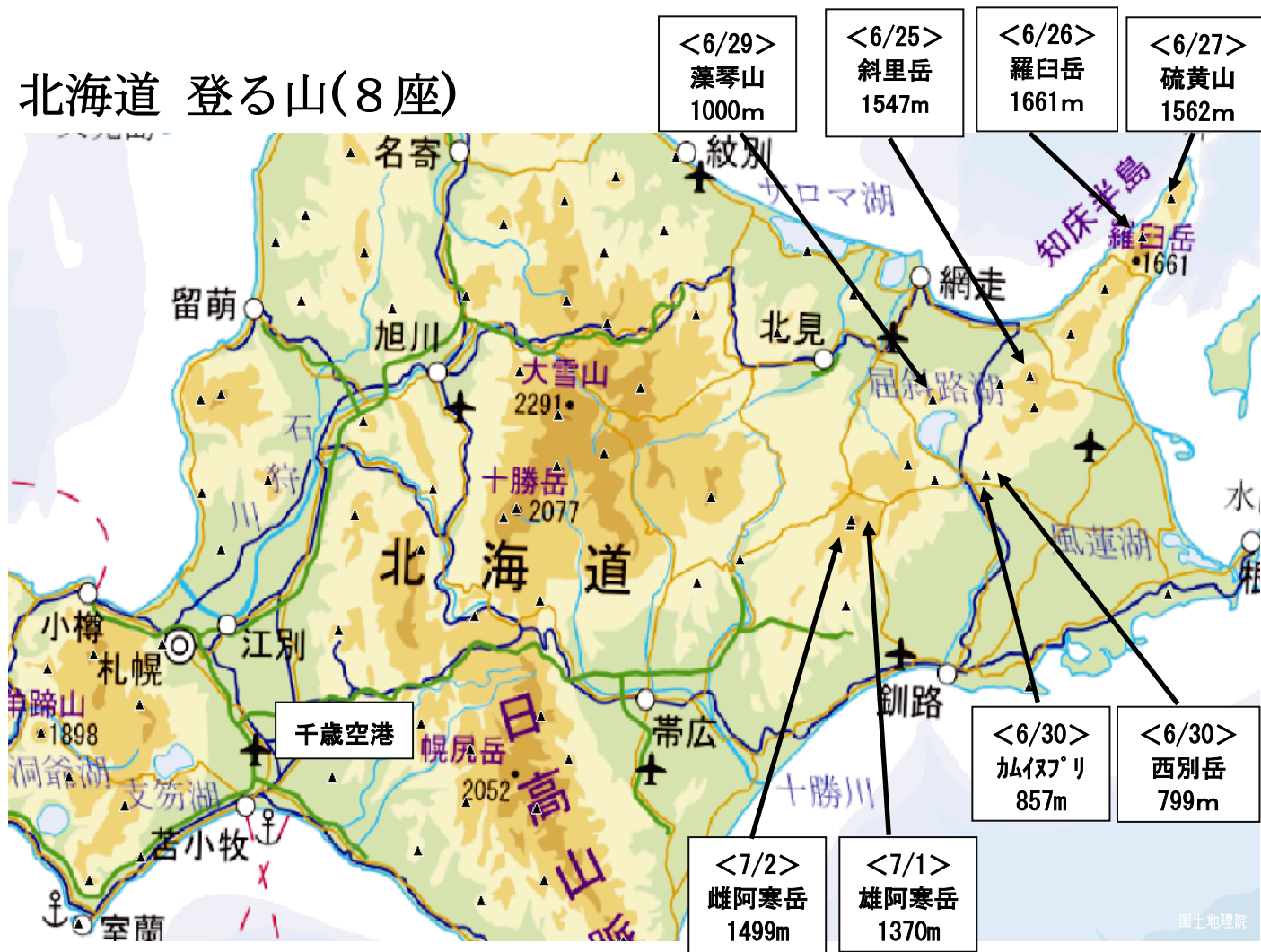
No.	氏名	役割	登山担当リーダー	保険	生年月日	年齢	血液
1	金子 清	CL・渉外	斜里岳	登山S	1955/5/10	62	A
2	藤田 勝啓	SL・装備	硫黄山	登山S	1953/6/6	64	B
3	町田 修	SL・地形・記録	羅臼岳	登山C	1955/9/5	61	B
4	町田 明美	(ゲスト)		モンベル アウトドア			
5	津田 廣一	記録(正)	雄阿寒岳	登山1S	1953/6/20	64	O
6	津田 利栄子	(ゲスト)		ハイ1			
7	竹内 幹雄	気象・写真	西別岳・ カムイヌプリ	登山S	1951/10/26	65	O
8	天野 広	会計		登山B	1955/4/25	62	AB
9	上田 正博	記録(副)	雌阿寒岳	ハイ1	1950/5/23	67	A
10	佐溝 直彦	アドバイザー	藻琴山	ハイ1	1939/3/4	78	A
11	鈴木 浩子さん	(ゲスト)		-			
12	玉澤 憲明さん	(ゲスト)		-			

スケジュール(概要)

No.	2017年 月/日	山名	標高(m)	登山コース	行動 時間(h)	担当	宿泊先
1	6/24(土)	(移動・観光)		千歳空港～清里(350km)			ホテル緑清荘
2	6/25(日)	斜里岳	1547	清岳荘～斜里岳(往復)	7	金子	季風クラブ知床
3	6/26(月)	羅臼岳	1661	木下小屋～羅臼岳(往復)	8	町田	↑
4	6/27(火)	硫黄山	1562	カムイワッカ～硫黄山(往復)	8	藤田	↑
5	6/28(水)	(予備日)		(硫黄山又は知床観光)		天野	ロッジ風景画
6	6/29(木)	藻琴山	1000	ハイランド小清水 725P～藻琴山(往復)	3	佐溝	ホテル養老牛
7	6/30(金)	西別岳・カムイフリ	799/857	西別登山口～西別岳～摩周岳(往復)	6.5	竹内	ホテル御前水
8	7/01(土)	雄阿寒岳	1370	滝口～雄阿寒岳(往復)	6.5	津田	↑
9	7/02(日)	雌阿寒岳・(移動)	1499	雌阿寒温泉～雌阿寒岳(往復)～千歳空港	4.5	上田	

・行き 6/24: ジェットスター 中部国際空港 07:10～(GK181 便)～札幌新千歳空港 08:55  
 ・帰り 7/02: ジェットスター 札幌新千歳空港 16:50～(GK186 便)～中部国際空港 18:40

北海道 登る山(8座)





#### 4. 思い出の1コマ、1コマ

6月24日 移動 (セントレア→清里)



出発



美しい花にパチリ



6月25日 雨中の斜里岳登山



こわごわ渡渉



霞む山頂



寒いよ～



最後の渡渉

6月26日 天候悪く観光・休養日へ 1日の～んびりしました



知床一湖をバックに



クマさんと友達に



オシッコの滝



くつろぐ親父



6月27日 天気回復した羅臼岳登山



👉アイゼン装着し、雪渓を登る

👉頂上の絶景 硫黄がチラ👈



6月28日 今回の最難関！ 硫黄山登山



👉先ず1本

ジャングルへ突入

👉頂上直下、おっかね〜



👉下山後、知床連山  
が初めて見えた

6月29日 楽しく登った藻琴山



準備体操後、出発

藻琴山山頂だ

頂上でハイチーズ

少し降りて広場で1本



6月30日 快晴の西別岳・カムイヌプリ（摩周岳）



きついな！がまん坂



見事な雲海



リスケ山山頂の一コマ



樹林のトンネルを行く



快晴の西別岳山頂



道端にエゾツツジ



急登を越えて摩周岳



はるかに摩周岳と摩周湖

7月1日 暑く、ハードな雄阿寒岳（昼から雨予報で特急登山？）



静かなり阿寒湖



暑いハードな山旅の始まり



暑くて死にそ～



黙々と登る



町田、快調、快調



食って食って一息



5人それぞれの頂上パフォーマンス

7月2日 天候悪く、雌阿寒を断念。移動と観光の日（北海道最後の日）



朝、小雨です



道の駅あしよる(足寄) 松山千春と



ノーザンホースパーク観光



ノーザンホースパーク観光（続き）



レンタカーポプラ店で



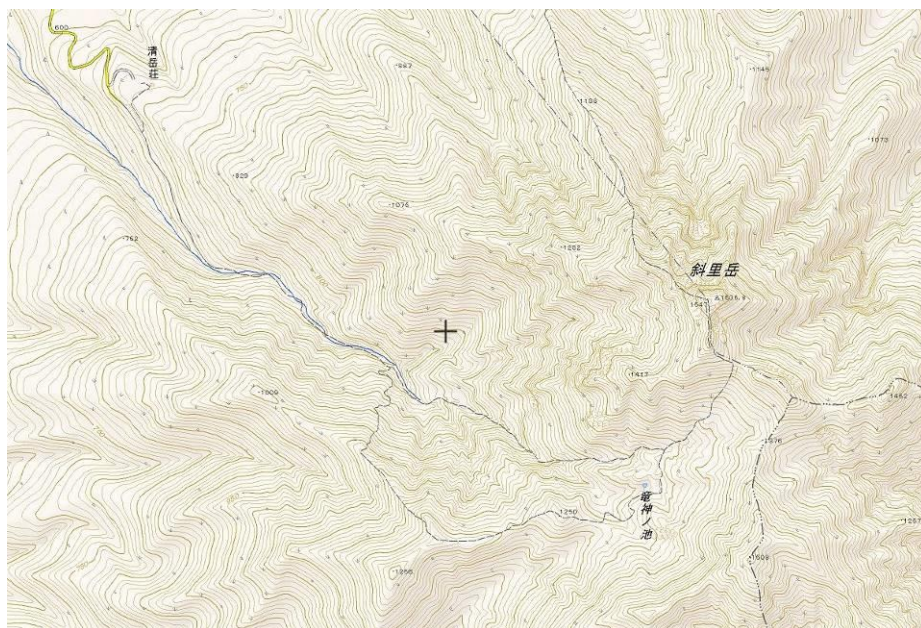
千歳空港



## 5. 行動記録

①斜里岳登山報告 6/25 (日) 小雨のち曇り

■ルート (清岳荘→尾根ルート→斜里岳 1547m、ピストン)



### 参加メンバー

CL ; 金子清

SL ; 町田修

藤田勝啓

津田廣一

竹内幹雄

天野広

上田正博

ゲスト ; 町田明美

ゲスト ; 津田利栄子

ゲスト ; 鈴木浩子

### ■行動

3 : 30 起床 ホテル緑清荘発 4 : 35 → 登山口着 (清岳荘 P) 5 : 00、  
登山口発 5 : 20 → 下二股 7 : 20 ~ 7 : 30 → 熊見峠 8 : 10 ~ 8 : 20 →  
斜里岳山頂 10 : 00 ~ 10 : 05 → 山頂下 (1 本) 10 : 20 ~ 10 : 30 → 熊見峠  
11 : 50 ~ 下二股 12 : 45 ~ 13 : 00 → 登山口 14 : 00 着

3 : 30 起床。各自朝食をとり早々にホテルを出発する。30 分程で清岳荘 P に着く。あいにくの小雨で雨具を着け登山口を出発する。登山道が沢の増水で徒渉を繰返しながら進む。下二股から沢ルート (旧道) を登る計画だったが増水のため尾根ルート (新道) に変更する。急登を熊見峠へ向かう。稜線に出るとガスの合間から山頂が見え隠れする。新緑と時々吹く風が心地よい。更に高度を上げる。途中、登山道に残雪がある。馬の背へ着くと雨風が強い。20 分程で山頂に着く。強風と雨で視界が悪い。記念写真を撮り、早々に下山開始。登ってきた雪渓を慎重に下る。下二股からは更に増水した沢を登山靴を濡らしながら安全に下る。昨年に引き続き、今年も登山初日は雨の山行となった。(記 : 金子)



増水した登山道を行く



斜里岳を望む



山頂から熊見峠へ向かう (下山)



斜里岳山頂にて



②知床観光報告 6/26 (月) 曇り

参加メンバー；天野広、金子清、藤田勝啓、町田修・明美、竹内幹雄  
津田廣一・利栄子、上田正博、鈴木浩子

天候とメンバーの体調を考慮し、6月28日(水)の予備日を前倒し、6月26日(月)に知床周辺の観光をした。  
知床五湖：肌寒い中一湖のみの見学だったが、広大な景色を楽しめた。



知床一湖



知床自然センター：ヒグマに対するレクチャーを受け、知床の四季（映像）を鑑賞。知識UP。



昼食の鹿肉入りキーマカレーがうまかった。



知床世界遺産センター：ムービーが良かった（無料）



オシンコシンの滝：国道からも見えた事に驚き！



知床自然センター

近くの川でかもめ？を撮影





### ③羅臼岳登山報告 06/27 (火) 曇り後、晴れ

メンバー：CL町田 修 金子 清 竹内幹雄 天野 広 上田正博

SL藤田勝啓 津田廣一 津田利栄子 町田明美 鈴木浩子

行動時間：10時間20分

【行動時間】 Ⅲ季風クラブ 発 (04:00) — 木下小屋発 (5:00) — 650m岩峰 (5:45) — 極楽平 (6:45)  
— 銀冷水 (7:50) — 大沢入口 (8:20) — 羅臼平手前 (9:15) — 羅臼岳 (10:35~11:20)  
— 銀冷水 (13:00) — 木下小屋着 (15:20) — 硫黄山登山口偵察 (16:00~16:30)  
— Ⅲ季風クラブ 着 (17:30)

日課のラジオ体操で体を目覚めさせる。木下小屋には先客が数パーティ入っていた。650mの岩峰まで少しきつい登りだ。その一面に登山者が一度は出会ってみたい花の一つ「タカネバラ」を利栄子さんが見つけた。素晴らしい眼力だ。それ以降はなだらかな灌木の中の登りが続く。大沢入口からしばらく歩いたところで雪渓が出てくる。雪道に自信のない数名はアイゼンを着ける。羅臼平に出ても、上空は晴れているのだろうがガスが中々取れない。風に飛ばされるガスの合間に羅臼岳の岩壁が時々顔を出す。道すがら、様々な高山植物が出迎えてくれた。圧巻はエゾノツガザクラの群生、ジムカデに至っては利栄子先生が羅臼岳固有植物と興奮して説明してくれる(後で調べると、ジムカデではなくてイワヒゲだった)。高山植物の観察に余念がなく、本峰の岩壁帯の前にピッチが上がらない。やっと10:35分、ついに念願の羅臼岳に登頂する。山頂の三角点は球状の銅の二等三角



点だ。ウトロ側の展望も開け、遠く羅臼湖も見える。そして羅臼側のガスも次第に晴れてきて、羅臼の港も確認できた。しかし、あれが国後だとはっきり確認できるまで晴れきってはくれなかった。明日、登る予定の硫黄山が時折ピークを見せている。部旗の前で記念撮影をすませ、かねてより計画していた「知床旅情」と、前日の夕食会で話題になった「奥美濃の四季」を全員で合唱する。



傍らで休んでいた四国から来たというパーティーの女性の方からハーモニカの伴奏を提供して戴き合唱も佳境を迎えた。我々より先に登頂した何人かは、ガスで何も見えなかったとこぼしていたが、6時間かけてゆっくり登った効果が此処に現れたか。下りの雪渓もアイゼンで慎重に下る。

熊除けの鈴を響かせエゾコザクラが揺れる花の羅臼岳を足早に下る。昨日の休養日が功をなしたか、10時間の行軍も何の其、みなさん元気でした。 記 2017.07.18/町田



オオタカネバラ



ミヤマハンショウズル



エゾノツガザクラ



イワヒゲ

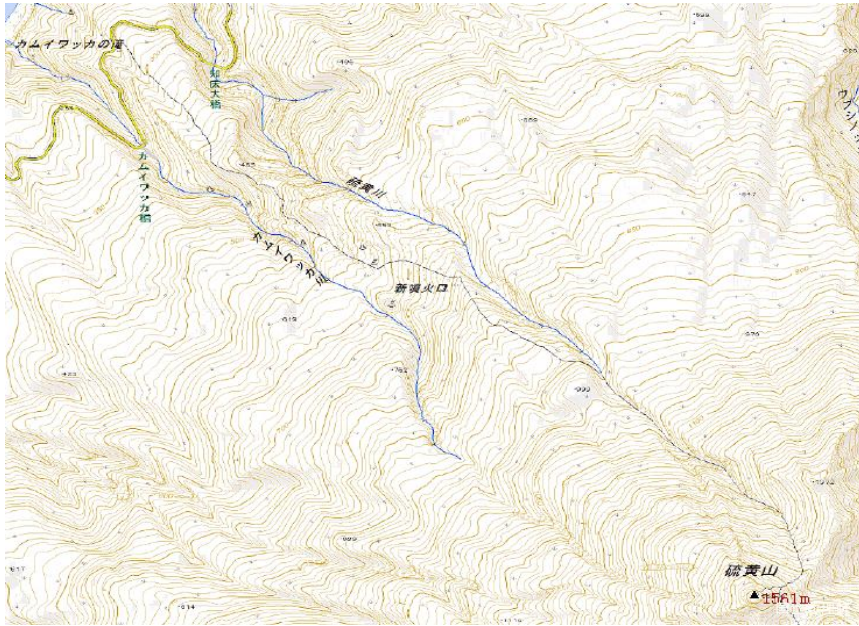


エゾコザクラ



#### ④硫黄山登山報告 □6/28 (水) 曇り

■ルート (カムイワッカ湯滝→山頂 1562m、ピストン)



3 : 00 起床 5 : 05 カムイワッカ湯滝 7 : 20 新噴火口上 10 : 25 山頂  
12 : 15 硫黄沢下部アゼン脱ぐ 14 : 20 登山口

ホル季風クラブから車2台に分乗し、カムイワッカ湯滝駐車場まで入る。登山口から硫黄沢経由で登り5時間、下り4時間を予定。駐車場でラジオ体操後出発。曇っているが、雨の心配は無さそう。登山道入り口にヒグマ警戒の看板。熊よけアゼンを持った者を前後に配置し、全員鈴と笛を鳴らして警戒モードで歩き出す。新噴火口最上部は硫黄ガスが噴き出していて、硫黄片もあちこちに転がっている。ここからは立木をかき分けて硫黄沢まで進む。硫黄沢は残雪の下に水が流れていて踏み抜きに注意だ。傾斜がきつく成る頃にアゼンを付ける。1350m付近でこの山特有のシレットコスミレを見つけた。この白いスミレを見たさに登る人も多いようだ。頂上直下の急斜面の岩場は雪が残っているとイヤらしいポイントだが、幸いにも残雪の縁をたどって山頂に到達できた。ガスが垂れ込めるので展望は利かない。記念写真を撮って早々に下山に移る。後から登る登山者とすれ違う時に話を聞くと登山口付近でヒグマを見たという。笛を吹くにも力がこもり、いつしか笛の合間に「ワッショイ」の掛け声も入り喧噪と活気が満ちてきた。硫黄沢はアゼン歩行で下る。硫黄採掘跡付近では天気が回復してきて、オホーツク観光をする観覧船が往来するのが見えた。やがて林道が見えて、下山口が近づく。緊張感も緩んで笛吹きを止めた時、先頭の金子が子熊が木から降りてくるのを発見。近くに母熊はいないか？緊張感が走る。熊よけフォーメーションで最後尾で熊よけアゼンを構えていた藤田と金子が前方に出る。幸運にも母熊の姿は無く、一安心。反省は下山するまでが登山。途中で気を緩めない事を改めて感じた。帰りの知床林道を走行中に道端でヒグマを発見。(記：藤田)

参加メンバー  
CL ; 藤田勝啓  
SL ; 金子清  
津田廣一  
町田修  
竹内幹雄  
天野広  
上田正博



シレットコスミレ



山頂にて



知床林道のヒグマ (車中から撮影)



## ⑤藻琴山登山報告 6/29日(木) 晴れ後薄曇り

《朝食前の観光・・・車で移動》

ロッジ風景画発 6:00 発～宇宙展望台 6:20 発～神の子池 7:10 発～ロッジ風景画 7:40 帰着



参加メンバー  
CL; 佐溝直彦  
SL; 町田修  
藤田勝啓  
津田廣一  
竹内幹雄  
天野広  
上田正博  
金子清  
ゲスト; 町田明美  
ゲスト; 津田利栄子  
ゲスト; 玉澤さん

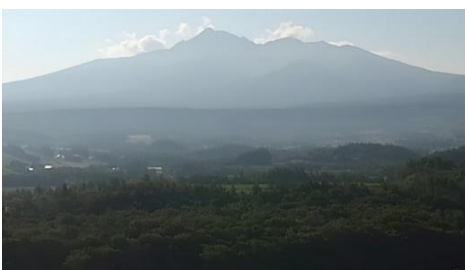
ロッジ風景画チェックアウト 9:50～ハイランド小清水 725 着 10:20、登山開始 10:30～藻琴山頂着 11:45  
下山開始 12:10～ハイランド小清水へ下山 12:50。以後は弟子屈經由西別登山口確認し養老牛温泉へ移動。

昨夜はロッジ風景画に途中参加の2名(ゲスト玉澤さんと筆者)が合流した。玉澤さんとは1年振りの再会。知床の名峰2山(羅臼・硫黄)を完登した後でもあり更にロッジは貸し切りで夜の飲み会は大いに盛り上がった。本日は半日登山と観光の計画である。先ず朝食前の観光は希望者のみ9名で宇宙展望台へ。清里町のオートキャンプ場の一角にある展望台は360°の眺望である。目前には斜里岳が大きな裾を広げて聳え右に目を移すと今日目的の藻琴山がゆったりとした姿で遠く望める。北にははるか知床連峰も霞んで見える。

朝食時には未だ間があると判断し清里町イチオシの神の子池に走る。摩周湖の湧き水が日に12000tonも湧き出ている。今日は晴れているので池の色は綺麗な清里ブルーで、風もなく映り込みもバッチリである。

計画より1時間程遅れてロッジを出発し登山口のハイランド小清水725へ向かう。この駐車場は名の如く標高725mと高く屈斜路湖が綺麗に見下ろせる。若者達が大勢登山準備している。我々もラジオ体操でストレッチして町田SLをトップにスタート。笹やハイ松の登山道はしっかりしている。足元のゴゼンタチバナ等を愛でながら進む。1時間程するとはっきりとした尾根道となり大きな屏風岩が現れる頃目指す頂も望めるようになる。程なく頂上手前の広場に飛び出る。ショートコースの銀冷水からのルートとの分岐。山頂からは足元に屈斜路湖の大展望、右上には雄阿寒岳が大きく頭をのぞかせ、左に目を移すと明日登る摩周岳の頭が確認できる。頂上は狭いので写真を撮って後続者に譲り手前の広場へ戻り行動食タイム。下山後は川湯温泉の蕎麦屋で午後の行動を検討する。観光ポイントは3ヶ所予定していたが必須の「行動食購入と登山口確認」を考慮すると余裕時間はなく玉澤さんの先導で弟子屈のスーパーふくはらに向う。更に中標津方面に向かいダートの林道を土煙をあげながら走りようやく西別岳登山口に到着。立派な西別小屋を確認し帰路は道道150経由、今夜の宿養老牛温泉に向かう。宿は標津原野のまっただ中にある人気の秘湯である。今夜はゆっくり温泉に浸かり明日の摩周岳登山に備える事にしよう。

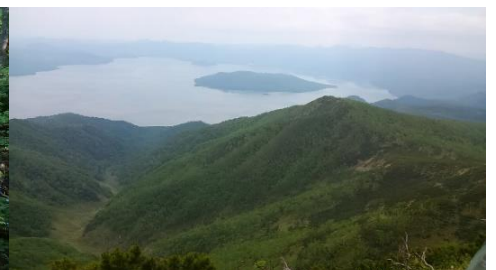
(記; 佐溝)



宇宙展望台からの斜里岳



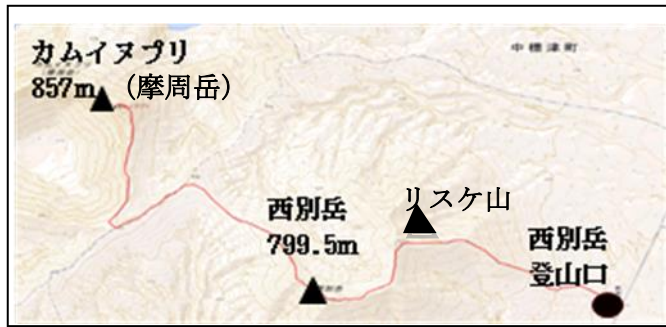
神の子池の映り込み



屈斜路湖俯瞰



⑥西別岳・カムイヌプリ（摩周岳）登山報告 6/30（金）霧のち快晴



**参加メンバー**  
 CL：竹内幹雄、 SL：天野広、金子清、  
 町田修、津田廣一、佐溝直彦、藤田勝啓、  
 上田正博、  
 ゲスト：玉澤憲明、ゲスト：町田明美、  
 ゲスト：津田利栄子

■ルート 西別岳登山口→西別岳→カムイヌプリ（ピストン）

■行動 4：53 登山口→5：35 がまん坂終点→5：50 リスケ山→6：45 西別岳山頂→7：43 分岐→8：40：摩周岳  
 →9：31 分岐→10：40 西別岳→11：20 リスケ山分岐→11：40 がまん坂終点→12：09 登山口

登山口は霧に包まれているが天気は晴れの予想。登山道は整備されていて歩きやすい。まもなく「がまん坂」の標識が出てきてこの先は急坂になっている。ゆっくりと登って行くと「がまん坂」終点の表示を見つけて一本取る。さらに登って行くと覆われていた霧も晴れ、青空が見えている。眼下には雲海が見えてまさに雲の上まで登ってきた感がする。程なくリスケ山の分岐に到着。ここから「リスケ山」をピストンする。この山は「加藤利助」という人の名前から名付けられました。玉澤さんの説明では利助さんは自主的に登山道の整備や高山植物の保護活動に努めてこられ、その功績が認められて関係各位の皆さんから無名の山頂に「リスケ山」という名前が贈られたそうです。ここから西別岳が前方に見えている。登山道脇には高山植物が咲き誇りそれを眺めながら緩やかな斜面を登る。西別岳に登頂。この先にはカムイヌプリも見えている。ここから一旦下り緩やかな尾根道を進む。やがて分岐に到着、摩周岳方面に進む。緩やかな道を進んで行くと摩周岳直下に到着。ここから急坂を登る。そこを登りきると山頂に到着。眼下には摩周湖があり「摩周ブルー」が見えた。快晴の中、風もあり涼しい。15分程休憩して下山を開始。頂上直下を降り、登ってきた道を下って行く。分岐から西別岳に登り、そこからは下るだけである。リスケ山の分岐手前で玉澤さんのお知り合い「利助さん」に出会う。「立ち話」をして別れる。「がまん坂」の急な斜面を慎重に下り登山口に到着。ここから宿泊地まで車で移動する。車中で西別岳に詳しい玉澤さんの話を聞く。そして、「阿寒湖温泉」で玉澤さんと別れる。（記：竹内）



がまん坂を登る



霧も晴れ眼下は雲海



花は今が旬



西別岳山頂 799.5m



西別岳から摩周岳を望む



樹林の中を進む



摩周岳山頂 857m



山頂から摩周湖



玉澤さんと利助さん



⑦雄阿寒岳登山報告書 7/1 (土) 曇り時々晴れ 後 雨



**参加メンバー**  
 CL：津田廣一、SL：竹内幹雄、  
 天野広、金子清、町田修、藤田勝啓、上田正博、

■ルート 滝口登山口→雄阿寒岳 (ピストン)  
 ■行動 7：50 登山口→9：05 風穴→10：00 4合目  
 →10：45 5合目→11：45 雄阿寒岳山頂(25分)  
 →13：10 4合目→13：50 風穴→14：30 登山口

1合目；8：30→2合目；9：00→3合目；9：35→4合目  
 10：00→5合目；10：45→6合目；11：10→7合目；  
 11：20→8合目；11：30→9合目；11：40→山頂 11：45

朝食のバイキングを6時半からしっかりと食べて、宿を7時半に出た7人は、登山口の滝口を7：50に出発。大



矢さんからは、午後から雨との予報が新たに入っていた為、いつもよりペースは早め。太郎湖、次郎湖を過ぎて傾斜を増した山道となる。樹林帯の中、風もなく、暑い。Tシャツ1枚なのに、汗が滲み出す。2合目を過ぎて広場となった風穴で1本。ザックを置き、風穴の中へ頭を突っ込み涼風



太郎湖



を身体に当てる。道は整備され暗くはないが、樹林の中、景色も見えず・道端の花も少なく・風も通らずに、只暑い。“半分以上登った”と記された4合目で1本。“何故、4合目で半分以上なのか？”訳は、後で分かった。更に樹林の中を進む。ようやく5合目。“6合目まで行きたいと思うも、皆もバテ気味だし・・・眺望いいし・・・”「よっしゃ、1本。」汗を拭い、行動食を腹へ入れる。時折、吹いてくる風が気持ちいい。気合を入れ直して再出発。6合目・7合目も過ぎると、視界も開け



ハクサンチドリ

前方が頂上らしくなってくる。金子から、「先が頂上？」と声がかかる。“前に来た時、すんなり頂上に着いたっけ？”と思い、返事を渋っていると、左手90度の方向に一段高いピークが見えた。“ああ～、まだもう一つ残ってた”平坦な8合目付近を過ぎ、最後の登りにかかる。9合目もすぐに通過し、頂上へ。握手と写真を撮って、360°の眺望。携帯が通じ、町田が佐溝さんの別隊と話している。頂上でゆっくり休ん



だ後、下山開始。トップの竹内さんが、一気に降って、皆も遅れずについて行く。8合目迄降って、クマ鈴を落としたのに気づく。金子に一言、声かけし山頂方向へ走



イソツツジ

る。9合目手前のハイ松に引っ掛かっていたのを回収し、大急ぎで戻る。待っていてくれた金子と合流し、皆の後を追う。やっと追いついた。雨の降りだす前に、一気に登山口まで急ぎに急いで降り切った。車に乗り込んだ直後に雨！疲労困憊したけれど、充実の山行ではあった。(記；津田)



## 7/1 (土) 雄阿寒岳登山日 留守組の行動報告

メンバー：町田明美、津田利栄子、佐溝直彦

当初の観光予定は白湯山・オンネトー散策・阿寒湖畔散策を予定していたが、雄阿寒登山組の下山時刻が早くなりそう・となったので2時前には登山口（滝口）で待てる様に1時にはホテルに戻る事、と決めて行動した。

### (1) オンネトー（湯の滝）散策：

オンネトーまで阿寒温泉のホテルから車で20分余、先ずオンネトーの定番スポットで雌阿寒・阿寒富士のペア撮影。9:25 湯の滝Pに駐車しアップダウンもない幅広い1.4Kの砂利道・木漏れ日の道をのんびり行く、25分で湯の滝、涼しそうな滝が流れ落ちている、水に手をかざすと温かくも冷たくもない湯が流れている訳ではないのだ、ここでは昭和の中頃までマンガンを採取していたらしい・詳しい資料が表示してある。

写真左・木漏れ日の道。

中・湯の滝

右・オンネトーから雌阿寒・阿寒富士



### (2) 白湯山の展望台・ボッケ（泥火山）への軽登山：

温泉街の隣にあるスキー場が登山口、ここは雌阿寒登山のロングコースの起点でもある。11時頃スタート陽射しが強いきー場（草は疎ら）の中を大きくジグザグで登る・振り返ると阿寒湖とその上には大きな雄阿寒が聳えている。20分程で左手樹林の中に白湯山展望台へのルートが確認できた、ここからは一変して深い樹林帯のなかの登山道であるやがて一番下のボッケが見えてきた、展望台はもう少し先の様子、今11:40になっている、ホテルに1時に戻る為にここで引き返す事にした。

ボッケは沢筋の登山道から少し離れた所にありロープで近づけないように規制してある。津田さんが笹の葉の裏に付いているマダニを発見！その場では互いの着衣に付いていないかな？程度の確認をして下山した。しかし夜町田さんがマダニに咬われていた・との報を受け下山直後の確認をしっかりとしなかったことを反省。皮膚に付いたマダニを取る器具を私は北海道に持ってきたが直前滞在していた厚沢部町から整理悪く自宅に送り返しており肝心な時に無く反省その2でした、町田さんゴメンなさい。町田さんは帰宅後医療機関で無事ダニを外したと聞きホッとしました。以上  
(記；佐溝)

## 7/2 (日) 移動日 雨のち曇り

雌阿寒岳は前日の天気予報が朝から雨であり、空港までの道のりが遠いこともあり、相談の結果今回は中止することになった。

朝食をゆっくりと7時30分に食べ、9時に宿を出発した。途中松山千春のふるさと足寄町の道の駅足寄銀河ホールに立ち寄り、松山千春のパネルを見学。その後空港近くのノーザンホースパークに立ち寄り、競走馬の牧場見学をして空港へ向かった。  
(記；上田)



## 6. 北海道で出会った花々

藤田勝啓

2017年北海道山旅は日高山脈の個人山行と道東のおやじの山旅で21山を登ることが出来ました。「山旅を楽しむ」を心がけ、急がない・疲れないようにゆっくり歩いて、登山道に咲く花をコンパクトカメラとスマートフォンにたくさん撮影しました。本州では見れない花、初めて出会った花々に登る意欲と山への印象を深めてもらいました。一人で楽しんでではもったいない、この思いをみんなと共有したいと、スマートフォンのLineアプリを使い家族、親せき、友人、山仲間へ気に入った写真を送信しました。始めは平凡な写真でしたが、自分なりに構図を考え、慣れてくると「だんだん良くなってね」とうれしい返信がありました。雪溶けに、はつらつと咲くたくさんの花々に会えた幸運に感謝しつつ、その一部を紹介します。



シレットコスミレ (硫黄山)



オオバナノエンレイソウ (斜里岳)



チシマヒョウタンボク (芦別岳)



エゾクサイチゴ (雄阿寒岳)



チシマフウロ (西別岳)



ハクサンチドリ 白と青 (富良野西岳)



オオタカネバラ (富良野西岳)



エゾノハナシノブ (定山溪天狗岳)



メアカンキンバイ (平山)





ウコンウツギ (芦別岳)



シナノキンバイ (芦別岳)



エゾコザクラ (旭岳)



エゾノツガザクラ (オプタテシケ)



チングルマ (美瑛富士)



エゾヒメクワガタ (美瑛富士)



イワウメ (オプタテシ)



タケシマラン (オプタテシケ)



リュウキンカ (平山)



コマクサ (平山)



エゾカンゾウ (雨竜沼)



リンネソウ (余市岳)



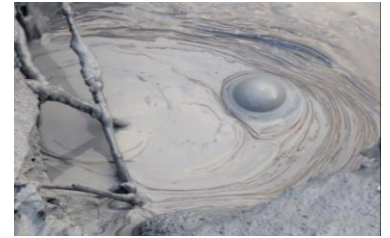
日付	山名	出会った花々
6月18日	ピンネシリ〜アポイ岳	エゾオオサクラソウ、ミヤマオダマキ、オオタカネハラ、アホイアズマキウ、キンロハイ、チングルマ、チシマフウロ、ヨツバシオガマ、アホイクワガタ、エゾキスミレ
6月19日	ピセナイ岳	エゾオオサクラソウ、ハクサンチドリ、コバイケイソウ、クリンソウ、オオカメノキ、クルマハソウ、タニキキョウ
6月20日	横山中岳	タチツボスミレ、イチゲ、マイスルソウ
6月21日	十勝幌尻岳	シラネアオイ、ムラサキヤシオ、エゾオオサクラソウ、サンカヨウ、オオハナノエンレイソウ、ハクサンシャクナゲ、ショウジョウハカマ、
6月22日	六花の森 坂本直行記念館	ヘニバナノイチヤクソウ、アヤメ、エゾカンゾウ、センダイハキ、ヤマブキショウマ、エゾスカシユリ、トカチフウロ、クリンソウ
6月23日	北日高岳	オオサクラソウ、ミヤマスミレ、
6月25日	斜里岳	ウコンウツギ、イソツツジ、 <b>オオハナノエンレイソウ</b> 、サンカヨウ、メアカンキンバイ、チングルマ、コケモモ、エゾカンゾウ、
6月27日	羅臼岳	チシマフウロ、タカネハラ、ウコンウツギ、エンレイソウ、エゾノツガザクラ、コメバツガザクラ、イワヒゲ、チングルマ、イワウメ
6月28日	硫黄山	イソツツジ、ゴゼンタチバナ、マルバシモツケ、ウコンウツギ、 <b>シレトコスミレ</b> 、コメバツガザクラ、コケモモ、キハナシャクナゲ
6月29日	藻琴山	チシマフウロ、チシマザクラ、ゴゼンタチバナ、
6月30日	西別岳〜カムイヌフリ岳	ヒオウキアヤメ、 <b>チシマフウロ</b> 、スズラン、イソツツジ、ミヤマキンバイ、ハクサンチドリ、カラマツソウ、
7月1日	雄阿寒岳	ウコンウツギ、イソツツジ、 <b>エゾクサイチゴ</b> 、ゴゼンタチバナ、イワウメ、ハクサンチドリ、エゾシャクナゲ、ツバメオモト
7月3日	富良野西岳	オククルマムクナ、キョウジャニンニク、リュウキンカ、 <b>ハクサンチドリ</b> 、 <b>オオタカネハラ</b> 、ツマトリソウ、ツバメオモト、ハイオトキリ、テングクワガタ、クロハナノハンショウツル
7月5日	芦別岳	ミヤマダイコンソウ、 <b>シナノキンバイ</b> 、オオバキスミレ、 <b>ウコンウツギ</b> 、ハクサンイチゲ、コケモモ、シラネアオイ、ミツバオウレン、ムラサキヤシオ、エゾシオガマ、カラマツソウ、 <b>チシマヒョウタンホク</b> 、ウスユキトウヒレン、エゾリリソウ、ゴゼンタチバナ、ミヤマオダマキ、マイスルソウ、
7月6日	旭岳	<b>エゾコザクラ</b> 、エゾノツガザクラ、キハナシャクナゲ、ミヤマキンバイ、イワヒゲ、チングルマ、メアカンキンバイ、エゾノツガザクラ、イワキキョウ、イソツツジ、イワフクロ
7月7日	美瑛富士	エゾコザクラ、 <b>チングルマ</b> 、ヨツバシオガマ、 <b>エゾヒメクワガタ</b> 、メアカンキンバイ、イソツツジ、イワウメ、キハナシャクナゲ、ウコンウツギ
7月8日	オプタテシケ山	<b>タケシマラン</b> 、チングルマ、ヨツバシオガマ、イワヒゲ、 <b>イワウメ</b> 、イワフクロ、エゾヒメクワガタ、コケモモ、 <b>エゾノツガザクラ</b> 、メアカンキンバイ、
7月9日	平山	オオバミゾホウスギ、クロハナノハンショウツル、 <b>リュウキンカ</b> 、 <b>コマクサ</b> 、イワフクロ、ヨツバシオガマ、ツバメオモト、カラマツソウ、チングルマ、エゾノツガザクラ、 <b>メアカンキンバイ</b> 、シナノキンバイ、トカチフウロ、コケモモ、タケシマラン、タカネシオガマ
7月10日	雨竜沼散策	シナノキンバイ、ミヤマオダマキ、ワタスケ、ミツガシク、ヒオウキアヤメ、シロバナニガナ クロハナノハンショウツル、 <b>エゾカンゾウ</b> 、モウセンゴケ、タチツボスミレ、ツルコケモモ
7月12日	定山溪天狗岳	オオバミゾホウスギ、クルマハソウ、シラネアオイ、チシマフウロ、タニウツギ、 <b>エゾノハナシノブ</b> 、ノビネチドリ、マルバシモツケ、オミシモツケ、サンカヨウ
7月13日	余市岳	ハイオトキリ、 <b>リンネソウ</b> 、ミヤマオダマキ、エゾカンゾウ、オオバミゾホウスギ、エゾシオガマ、ゴゼンタチバナ、ツバメオモト、マイヅルソウ、ツクハネソウ

※太字（朱記）は写真を掲載しています



## 7. マダニ咬まれ考察（トピックス I）

道東の山旅、7月1日（土）に雌阿寒岳麓、白湯山遊歩道（とは云うものの草が茂っている）から「※1 ボッケ」散策に行った際、町田明美がマダニに咬まれた。初めての体験であり、処置方法や今後、マダニに咬まれないための参考になれば幸いと思い、記録として残します。



※1 泥火山

### I. マダニに咬まれるまでの経緯と気づき

- ・登山靴とズボンで出かける（スパッツ未着用・マダニ防止スプレー未使用）
- ・白湯山遊歩道のブッシュ道を熊除けホイッスルを吹きながら歩く。
- ・下山後、ホテルの温泉で膝裏に付いたマダニを発見（利栄子さんに確認してもらう）
- ・LINE で下山したら（町田は雄阿寒岳に登山している）取ってくれるよう連絡する。

### II. 処置経緯

- ・阿寒地区診療所が休診で身近な病院は釧路までと聞き、町田がマダニ取りを決意する。
- ・処置道具（①佐溝さんの毛抜き ②ホテルの毛抜き・消毒液  
③津田さんのガーゼとボイスリムーバー※2
- ・老眼鏡を着ける（これがないとピンボケ）
- ・頭部は皮膚の中に潜り込んでいる状態で、頭部辺りを上記  
① ②で掴んで引き抜いた。しかし、頭部が皮膚下に残った。  
③後述するが、マダニの唾液で皮膚が一部石灰化する。だから、簡単に引き抜けない。
- ・再度、①②で皮膚表面の黒い部分を引き抜こうと試みたが、引き抜けなかった※3
- ・せめて、毒抜きをと、③で4～5回吸い取りを実施する。
- ・痛み、痒みが発症するといけないので、藤田さんが紹介してくれた薬局に行き薬を購入する。



※2 蜂刺され等の毒抜き器

### III. 咬まれてしまった反省点と咬まれないための対応

- ・マダニスプレーを使用しなかった→確実に使用すべき（わざわざ購入して在った）
- ・足元（スパッツ）の防護処置が甘かった→ブッシュ地ならスパッツとカッパのズボン着用
- ・まさか、自分が被害に合うという意識が少なかった  
→北海道の山はハイキングコースでも、マダニが身近に生息していることを強く意識すべき

### IV. 処置の反省点

- ・毛抜きでの引き抜き（頭部まで上手く掴めない）
- ・細部が良く見えない（老眼鏡で試みたが、クッキリ見えない）
- ・諸条件が揃っていなかった（診療所が休診・手身近な病院が釧路・足寄／片道1h以上）  
故、素人試みで対応したが、遠方でも病院での処置を行うべきと思う。
- ・頭部が残っている事の本人ストレスは大きいので上記、病院対応が必要である。

### V. 早く発見するための動き

- ・下山後の身体チェック※4（見える範囲で／相互チェック）※4 咬まれても自覚症状がない
- ・下山後、風呂で体全体を相互チェックする。



## VI.咬まれた場合の処置（上富良野町立病院／外科：兼子稔先生）の紹介

・当院は農村地帯にあり、また自衛隊駐屯地・演習場を持つため、この時期（4月～7月）はダニ咬症（マダニ）の患者さんが極めて多い。マダニは人に食いつくと同時に唾液を分泌し、これが石灰化するため引っ張っても取れず、外科的切除を要する。当院で行っているダニ切除法を供覧する。



- ① ダニ咬症（下顎部）の症例である(図 1)。シュルツェマダニの幼虫と思われるが、血液をかなり吸っており、噛まれてから少なくとも1日以上経過していると考えられる。この状態では引っ張っても取ることは不可能であり、無理に引っ張ろうとすると頭部が皮膚に遺残し、頭部切除に難儀することになる。
- ② まず1%キシロカインにて局所麻酔を行う(図 2)。キシロカインの量は0.2～0.3mlもあれば十分である。
- ③ 次にダニの胸部をアドソンの摂子で掴み、ダニの体軸と「水平」にダニ頭部ぎりぎりのところにメスを入れる(図 3)。メスを入れる深さは2～3mm程度で十分である。噛まれてから時間がたっていないケースではこれだけで取れることがある。ダニの腹部は掴んではならない。ダニ消化管内に存在するライム病ボレリアなどを腹部を掴むことでわざわざ皮膚に注入することになる。



- ④ 上の操作で取れないときは反対側（最初にダニの背側からメスを入れた場合は腹側から）もやはりダニの体軸と水平に、かつダニ頭部ぎりぎりにメスを入れる(図 4)。99%の症例ではこの2つの操作でダニ摘除が可能である。
- ⑤ 切除後のダニである。矢印の部分にダニの頭部がちゃんと残っているのが分かる(図 5)。
- ⑥ 傷跡はスピッツメスの大きさと比較して分かるように極めて小さい(図 6)。もちろん縫合は不要である。後処置はカットバン程度で十分である。切除後はライム病予防のためアジスロマイシン（ジスロマック）500mg/dayを3日間投与する。
- ⑦ マダニは様々な病原体を媒介するが、特にライム病は頻度が高く神経障害、心筋症などを来すこともあるため要注意である。以前勤務していた病院で認めたライム病による遊走性紅斑の症例を写真に呈示する(図 7)。ジスロマック投与でライム病治療期間が有意に短縮できるという報告もあり、1日1回服用で良いため服薬コンプライアンスも高い。予防投与としては有用であると考える。



## VII.エピソード

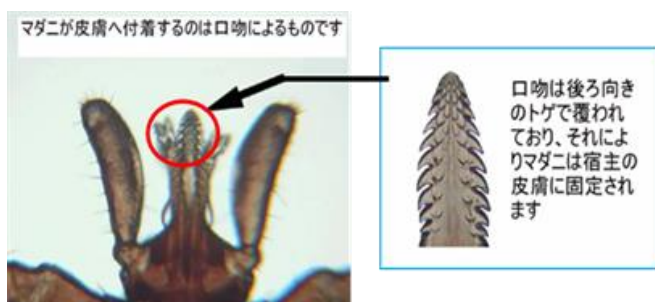
- ・ 7/1（日）帰路、阿寒湖から足寄へ向かう折、足寄の病院で残置頭部を除去してもらう予定だったが、当人が痛くも痒くもないと云うので愛知県に帰ってから、掛り付けの病院に行くことにした。  
（頭部は残ったものの、町田の処置が賢明だったのか・・・。）
- ・ 7/2（月）高浜の近藤医院にて残置頭部の切開除去  
主治医（おなご先生）が、処置体験が乏しく、院長と二人で麻酔・切開除去実施。  
実習／研修に置き換えたのか、処置費はタダだった。



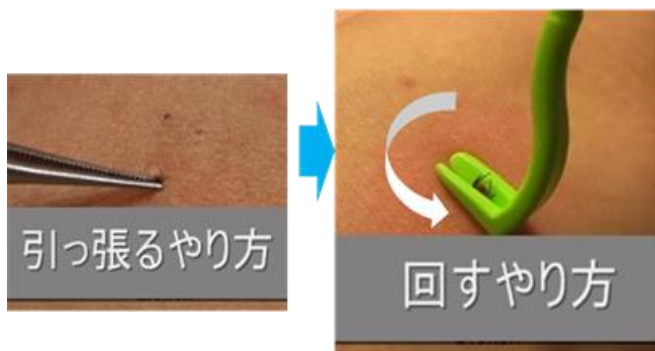
以上、マダニ咬まれ報告を起承転結にまとめました。北海道の山旅は来年以降も続きます。

以後、上記報告内容のごとく、マダニに咬まれないような対応、また咬まれた場合の処置が参考になれば幸いです。最後に、毛抜きやガーゼ・ボイスンリムーバーを提供していただいた佐溝さん、津田さん、体験談とアドバイス、薬局を紹介してくれた藤田さん、7/1（日）の足寄病院行に同意してくれたメンバーのみなさん有難うございました。これを機にみなさん「ティックツイスター（下図参照）・ボイスンリムーバー・ガーゼ・消毒液」をセットで携帯しましょう。

2017.07.22 町田 修



ネットで探すと、色々なツールが出てきます。簡単に取れるのはパール形状のツールで、回転させ、取るのが最良のようです。



646円



## 8. セントレア欠航（6月21日9時50分発）（トピックスⅡ）

何が起きるか？分からない。エアー便の欠航に遭遇です。（暑寒別を登ろうと3日前出発を企んだ結果）

早朝にタクシーで豊橋駅へ。予定より1本早い名鉄特急に乗り込んだ迄は順調。

これから何が待っているか、分からないまま幸せな仮眠をむさぼっていると、「強風の為、セントレアの手前で列車は運航停止しています」との、突然のアナウンス。眠気が一挙に吹き飛んで、「どうしよう？何か、打つ手は？」と、思念が頭の中を駆け巡るも、何も思いつかない。妻が、「どうしたらいい？」「分からん！とにかく、行ける所まで行って考えよう。」神宮前でセントレア行の特急へ乗り換え、常滑へ。降りるとホームが人で溢れてる。最後尾らしい所へ並んで様子を伺うも、列が動かない。タクシー乗り場への列も、バス乗り場への列も全く動かず。というより、何のための列か？が分からない。列車が到着するたびに、人がどんどん増え、ますます混雑に拍車がかかる。代行バス手配がされているだろうと思うが、バスが入ってきてても行先が違い、人を乗せないまま、空状態でむなしく出て行く。時間の経過は早いのに、膠着状態のまま。そこへ、「今から、代行バスの手配をします。」とのアナウンス。「えっ！今まで、何もしとらんかったの？こんなに人が溢れた状態なのに、名鉄ってリスク管理出来ないの？」疑問と愚痴ばかりが、次から次へと湧いてくる。やっと、1台目のバスが来た。座席定員いっぱい出ていくが、待っている人が多すぎて“焼石に水”だ。2台目のバスが、しばらくして到着するも、次のバスは20分後との事。“出発時間に間に合わない”と皆焦っている。「座らずとも、立ってでも乗車させてよ！」と、懇願するが、安全ルールから駄目との事。“状況に応じた対応が出来ないのか？”と、思う。出発時刻の30分前になって、ANA・JTBの窓口へ携帯電話をかけるも通じない。諦めて、覚悟を決める。空港到着でする事は、“次のフライト手続き、レンタカー会社に一報、朝飯、今日の予定を再検討”と頭が回りだした。やっと、振替バスに乗るも、慣れない運転手が道を間違えて立ち往生、セントレア利用の乗客ナビで入口到着が出発予定時刻の15分後。搭乗便の出発遅れにわずかの望みをかけて、ザックを担ぎ、スーツケースを引っ張ってANAの窓口へ猛ダッシュ。列に並ぶより、係員へ声をかけ、搭乗予定便の欠航が判明。台替便の手続きをしてもらおうと19時発便。これじゃ、レンタカーも借りれない。千歳で野宿は勘弁してよ。全便にキャンセル待ちを入れる。レンタカー会社へ事情説明し、朝食を食べて、11時半のキャンセル待ち窓口へ。これは駄目だったが、次の13:05発便がヒット。14:45に千歳へ到着。時間と明日の天候を考え、神居尻山を断念。雨竜沼湿原へ変更。今夜の宿を道の駅「田園の里うりゅう」と決定。とんでもない1日が終了した。（記；津田）

## 9. 参加者の所見&感想

<金子 CL>

おやじの山旅2年目を迎えた。今年も月1回の集まりを持ち計画を練った。

昨年の北海道の山(道央・道南)に続き、今年も皆の北海道の山(道東)への憧れが強かった。

斜里岳、羅臼岳、硫黄山をメインに道東の山々を8座選定した。準備を進める中で、昨年よりまして熊対策の必要性を感じた。笛、鈴、ラジオの他に熊撃退スプレーを購入し持参した。当然使ったことは無く、現地の知床自然センターで使い方のレクチャーを受けた。熊が4mまで近づいてから顔を目掛けてスプレーすると効果があると教えて頂いた。実際、うまくできるか不安だった。登山中に熊との遭遇は硫黄山で小熊に出会ったが逃げて行った。親熊と遭遇せず良かった。幸運でした。

期間中、前半は曇りの日が多く、展望が開けなかったが後半は好天に恵まれ北海道の山を満喫できた。

最終日の雌阿寒岳は悪天のため無理せず中止にしたが概ね計画通りの山行ができた。

今回の参加者はゲスト4名を含め12名(内女性3名)と、昨年の仲間が集まってくれた。特に前半の山(斜里岳、羅臼岳、硫黄山)は行動時間が長く、連日早朝発で夏山合宿のようでしたが、皆さんのお陰で楽しく充実した山行ができました。ありがとうございました。次回も皆さんと感動を共に！



## <藤田 SL>

ピンネシリ～アポイ岳、ピセナイ山、横山中岳はダニ対策でカップとネット着用して汗だく。  
十勝幌尻岳は林道と登山道崩壊で頂上往復に12時間。あとで知ったが入山禁止だった。  
北日高岳は下山途中にストックを置き忘れたことを駐車場で気が付き走って取りに行く。  
斜里岳、羅臼岳、硫黄山は連日9時間行動。羅臼頂上で知床旅情を合唱。硫黄山のシレットコスミレ。  
藻琴山、西別岳、カムイヌプリは行動中の展望が最高。雄阿寒岳は阿寒湖が良く見えた。  
富良野西岳、芦別岳、美瑛富士、オプタテシケ、平山は花と展望の山。  
登山溪天狗岳は岩場歩きで慎重に通過。余市岳はリンネソウの群生に感激。  
1ヶ月充実した山旅でした。付き合っていたいただいた玉澤さんと同行メンバーに感謝。

## <町田 SL>

今回の知床半島の山々、西別岳とカムイヌプリ、強く印象に残ったのは高山植物の多さとその綺麗さでした。雄阿寒岳以降、我々が帰ってから単独で登山を続ける藤田さんから送られてくる高山植物の花々は見事でした。利栄子さんと藤田さんが教えてくれる花の名前が何故か頭に留まらず、右の耳から左の耳へ抜けていくのです。留め方の工夫は次年度に考えるとして、やはり自然環境の良さ、山の深さが彼の花々を謳歌させているのでしょう。西別の利助さん。あのような方が鎌を片手に、日々山を巡回され、登山道をお花畑を守ってくれているのですね。玉澤さんご同行、ありがとうございます。当年69歳、益々の活躍を祈念いたします。愉快的仲間と9日間の北の山旅、今年もありがとうございました。

## <竹内 気象・写真・担当>

### 気象担当所見

今年も「大矢さん情報」を参考に天気情報を予測しながら登山することができました。  
2日目の「斜里岳」登り始めは小雨、山頂ではガスの中で景色は見えない。下山は曇り空でした。3日目は山頂から下は一時雨の予想もあり観光にしました。良い判断でした。4日目「羅臼岳」の山頂は晴れでした。5日目「硫黄山」山頂は霧でした。6日目「藻琴山」7日目「西別岳・摩周岳」8日目「雄阿寒岳」は共に山頂は晴れ。最終日「雌阿寒岳」は雨の予想もあり登山は止める。麓から見ると山は雲の中で登っていれば雨の中で景色は見えないと予測する。

### 写真担当所見

雨で景色が見えない日は撮った写真の枚数が少ない。それでも、9日間ありそれなりに記録に残すことができました。また足りない所はメンバーの皆さんから写真をもらい補うことができました。

### 感想

初日の登山は小雨の中で登頂することになりましたが、次の日からは天候に恵まれ山登りを楽しむことができました。最終日は登れなくて残念でしたが「悪天の中では登らない」という選択は良かったと思います。一人ではなかなかできない「山旅」ですがみんなで楽しみながら無理をしないでやれるのが良いです。企画、計画を進めてくれた金子さん、メンバーの皆さんに感謝します。有難うございました。



<天野 会計担当>

- ・今回はメンバーの入れ替わりが少なく、替わり方もちょうど半分ずつだったので計算が簡単になった。
- ・宿の支払いは出来る限りカード払いを活用し、多額の現金を持ち歩かなくて良かった。
- ・昨年の反省を踏まえ、下記2項の原則を守り、うまく計算できた。

1. 宿泊と交通費以外は原則個人払い

2. 個々で払えない場合は各自で金額と銘柄を必ず記録する事

感想；全ての事が良い思い出となっています。

斜里岳：増水した沢を幾度となく渡渉し、滑っての水没の恐怖。頂上直下での強風。

観光：「キーマカレー」うまかったなー！

羅臼岳：美しい花に出会えた事。頂上での知床連山の景色・「知床旅情」の合唱。長い歩き。

硫黄山：小雨の中ハイ松との格闘。登頂の感激！頂上直下・非登山道急下りの転落恐怖。ヒグマ遭遇の恐怖。

西別岳：美しい雲海・お花畑に出会えた事。

摩周岳：切りたつた頂上に登れ感激！美しい湖水。

雄阿寒岳：ただただ暑かった。

<上田 記録担当>

一年の月日の経過は早いものです。今年もおやじの会北海道山旅に参加しました。体力維持をしながらの参加でしたが、年々の体力の衰えを感じつつ不安な気持ちでした。今回は、道東の知床半島周辺で昨年より厳しい山が選定されており、無理な日は温泉待機で休養を取りながら迷惑をかけない登山を覚悟での参加でした。斜里岳、羅臼岳、硫黄山、と10時間に及ぶ山行は、毎回自分には厳しい山行でしたが、仲間の励ましと自分への挑戦の気持ちで登りきることができ、次への自信にもなりました。今回の登山で印象に残ったのは、硫黄の雪渓を登りきったこと、また山頂直下の急なガレ場を安全に下山できたことです。景観で素晴らしかったのは、摩周岳山頂からの霧一つない摩周湖の全景と雲霞の上にそびえる、今回登った山々の全景の素晴らしさに山の素晴らしさを再認識しました。私にとっても、これからの山行の目標ができ、とても楽しい山行でした。企画された実行委員、参加された皆さまありがとうございます。感謝します。

<津田 記録担当>

昨年からはまったおやじの山旅。“年々に、体力の衰えを痛感していく事になるんだろうな”と、思いながら、10年目標の2年目。まだ大丈夫だろうとの自信はあったが、前回登頂した時と今回では、しんどさが増した様に思えた。しかし、今回初めて挑戦した山も、2回目の山も、登頂時の「ヤッター！」と思う感動は、やはり素晴らしく、この素晴らしさを感じるからこそ、又、登ろうと思うのだと思う。雨の斜里、頂上で合唱した羅臼、藪漕ぎとヒグマの恐怖を少し体験した硫黄、藻琴山・西別・摩周は天候に恵まれ最高の景色を楽しみ、雄阿寒はしんどかった。それぞれにいい思い出となった。又、来年も頑張りたい。

<佐溝 アドバイザー>

今年は道南・厚沢部町滞在を終えての途中参加で清里町ロッジ風景画でメンバーと合流、私は軽登山のみ同行する計画で正解でした。私の主目的の摩周岳は雲海・眺望・花を満喫でき大満足、但し7Hと長かったので足がつりそうになった(芍薬甘草湯でOK)。硫黄岳はもし70歳頃だったら迷いなく同行したけどな・・・来年夏も軽登山のみ同行する気ままスタイルでお願いしたいと思っています、その為にもプラン自由度大な一拠点滞在形(例：上川郡東川町)を是非提案したい。

おやじの山旅メンバーについて(今回は三矢さんが不参加で高齢者私1人だった・・・)

：樫の木会員や部員関係者で関心のある方は参加自由として少し呼びかけてはいかが？

何より高齢者の私をも仲間にして行動してくれたおやじ山旅メンバーの皆さんに感謝です！有難う。

<玉澤憲明さん（ゲスト）>

昨年に引き続き、藤田さんメンバーより早く来道。

6/18、アポイ岳登山口へ藤田氏の車を置き、自車でピンネシリ登山口へ移動。登山開始、藤田氏の歩行状況は常に順調、ピンネシリはダニが多いとのことで、下着の上にゴアテックスの合羽とスパッツ、虫除けネットで重装備。頂上に着き、藤田氏の合羽にダニが 10 匹くらい付いているのを発見、払い除ける。共々に刺されずに無事。次の吉田岳へ移動中、右ひざが痙攣。すぐに芍薬甘草湯を服用し、30 分以上待たせて回復。1 時間くらい移動後、今度は太股が痙攣、又、服用。無事、アポイ岳を下山出来ましたが、コースタイムを 2 h 以上オーバー。藤田氏に多大なる迷惑をかける山行となりました。

<鈴木浩子さん（ゲスト）>

今日、山旅のグループラインに投稿があった。久方ぶりに拝見させていただいた。山旅が鮮明に蘇る。斜里岳、羅臼岳、ひとりでは到底叶うことのない登山、自然遺産への山旅である。渡渉、雪溪、稜線上の猛烈な風、一瞬の夏を咲き誇る花々、心を合わせ羅臼岳頂上よりの眺望。今年も参加が叶った、そして今年も何ひとつとして準備、役割を担うことのなかった自身であった。この様な私を昔ながらの友人のように和やかに接して下さる皆さんに、ただ、ただ、頭の下る思いである。心より感謝を申し上げたい。

<町田明美さん（ゲスト）>

マダニに咬まれたり、渡渉中渡りそこない岩にしがみついたり、いろいろご迷惑をおかけしました。その都度助けていただき、ありがとうございました。教訓としては、山野を散策する時はスパッツはともかく、虫除けスプレーを忘れないこと、草むらには虫が居ると云う事を実感しました。それでも私としては楽しい北海道でした。こんなドジな私ですがこれからも宜しくお願いします。

<津田利栄子さん（ゲスト）>

昨年に続き、今年も大変お世話になりました。ありがとうございます。いつも感じるおやじの会の皆さんのやさしさ・暖かさに甘え、足を引っ張りながらも一緒にさせて頂いています。道草も多く、ご迷惑をおかけしました。いつまで、ついて行けるかな？と、思いますが一年でも長く参加できる様に頑張ろうと思います（花たちにも“頑張ろうね！！”と背中を押されながら・・・）。どうぞ、よろしくをお願いします。

### 【編集後記】

10 年計画で、おやじの山旅のスタートを切って、2 年目。今年も、なんやかんやありながら、雌阿寒を除いて 7 座の山へ登る事が出来ました。（斜里、羅臼、硫黄、藻琴、西別、摩周、雄阿寒の 7 座）編集委員長を引き受けて 2 年目だが、徐々に根気が続かなくなっている様に感じます。毎月のおやじの会（進捗確認と親睦飲み会）の前に、さ～やるぞ！と、徹夜に近い状態でも頑張れて、進められた編集作業が 12 時になるや、ま～いいか？となってくるのも年齢だろうか？山中での行動では、まだ実感していないものの、数年経過すると、感じ始めるのではないだろうか？このプロジェクトにも、新メンバーに加わってもらい、編集委員長のバトンを渡すメンバーが現れるのを楽しみに待つ事にしよう。今年も、無事に乗り切れました。感謝、感謝！